

税について思うこと

東中学校 3年 曾根 はるな

私はよく買い物に行きます。ある時、ふとレシートを見たら、「消費税」と書いてあるのを見つけました。私は今まで、税金とは大人だけが払っているようなイメージがあり、遠い存在のような気がしていました。しかし、普段意識していないだけで、私もちゃんと税金を払っていたのです。なんだか税金が身近なものに感じられました。

私は、ほかにどのような税金があるのか興味がわいてきたので、母に聞いてみました。母は、給料などの所得にかかる所得税や土地や家を持っているとかかる固定資産税などさまざまな税金があることを教えてくれました。最後に母は、言いました。

「自分の納めた税金が、社会の役に立つなんて、素晴らしいことだと思わない？」

ところでその税金はどこで使われているのでしょうか。私は、考えてみました。頭に思い浮かんできたのは、教科書の裏表紙に書いてあった「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。」という言葉でした。調べてみると、私達が学校で使っている教科書や机、イスの購入、また校舎の建設や修理などは税金によってまかなわれているとのこと。私の両親もそうですが、大人の皆さんは毎日汗水流して一生懸命働き、税金を納めてくれています。私達は、その税金のおかげで勉強をすることができているのです。これは、すごく幸せなことだと思います。世界には勉強どころか飢えや貧困に苦しみ、生きていくことすらままならないような子ども達も大勢いるのですから。私達中学生はもっと、今このように生活できていることを感謝すべきです。こんなのあたり前なんて思わないで、あたり前にできるありがたさをもっと考えていかなければなりません。きっとそれが、今の私達から税を納めてくださった大人の皆さんにできるせめてものお礼だと思います。

私は、この作文を書いて税金のありがたさに気づくことができました。本当によかったと思います。私も、将来はきちんと税を納めて義務をはたし、私達に幸せをくれたこの日本に貢献できるような人になりたいです。そして、日本を支えていたら良いと思います。私が大人になってもしも子どもができたなら、胸をはってこう言いたいです。

「自分の納めた税金が社会の役に立つなんて素晴らしいことだと思わない？」